

病害虫発生予察注意報第1号

(平成28年4月6日)

病害虫名 ベと病

1 発生作物 たまねぎ、ねぎ

2 発生地域 大阪府全域(特に、泉州地域)

3 発生の状況

4月5日のたまねぎの巡回調査(泉州地域)では、べと病の発生が多く、発病ほ場率は平均71.4%、発病株率は平均32.6%と高く(予察巡回地点の過去10年平均2.9%)、多発ほ場も見られる。その他、ねぎでも発生が多く認められる。

大阪管区気象台の大阪府農業気象速報(3月31日発表)では、向こう1ヶ月の平均気温は平年より高い確率が70%、降水量は平年より多い確率が50%であり、べと病が発生しやすい条件と見込まれることから、今後さらに多発する恐れがある。

表1 たまねぎべと病の発生状況
は、調査ほ場数

()内

調査地点	発病ほ場率(%)	発病株率(%)
泉佐野市(上之郷)	25.0 (8ほ場)	0.3
泉佐野市(日根野)	90.9 (11ほ場)	48.8
岸和田市(阿間ヶ滝)	88.9 (9ほ場)	40.3

平均	71.4(28ほ 場)	32.6
(参考) 平年値(過去 10 年平 均)	—	2.9

但し、発病株率は、ほ場により差が大きい。

4 ベと病の生態と被害等

- (1) 主に葉に発生する。たまねぎの他、ねぎ、わけぎなどに発生する。
- (2) 越年罹病株で形成された孢子から感染し、春期に発生する2次感染株は、気温が15℃位で、降水量が多いと増加する。特に、4月中下旬から5月上旬にかけて曇雨天が続くと、発生が多くなる。
- (3) 2次感染株の病斑は、黄色で大型の長卵形から楕円形をした病斑を生じることが多く、病斑上に、白または暗紫色のかびが生えることが多い。他にも種々の形態が見られ、適温(15℃前後)の降雨時には、葉色には変化がなく、突然かびを生じることもある。

5 防除対策

- (1) ほ場の状況をよく観察し、適期に防除する。
 - ・発生を認めたら、下記の薬剤を散布する。
 - ・現在、発生のないほ場でも、予防的に下記の薬剤を散布する。
 - ・薬剤により使用時期が違うので、ラベルをよく読んで適期に散布する。
- (2) 同一薬剤の連用を避ける。特に、QoI殺菌剤、CAA殺菌剤、フェニルアミド系(薬剤名は表2参照)は耐性菌が発生しやすいため連用は避ける。これらの剤を使用したにもかかわらず発生が多いほ場では、耐性菌の発生が疑われるので、他系統の薬剤を使用する。
- (3) 薬剤を散布する時は、周囲に飛散しないよう注意する。
- (4) 以下の薬剤を参考とする。

表2 散布薬剤・たまねぎ(例)

系 統	薬 剤 名	希 釈 倍 数	使用時期 ／使用回数	備 考
-----	-------	---------	---------------	-----

ジチオカーバメート系	ジマンダイセン水和剤 ペンコゼブ水和剤	400～600 倍	3日／5 回	予防
フェニルアミド系＋ ジチオカーバメート系	リドミルゴールドMZ	1,000 倍	7日／3 回	予防・治療
QoI殺菌剤	アミスター20フロアブル	2,000 倍	前日／4 回	予防
QoI殺菌剤＋他	ホライズンドライフロアブル	2,500 倍	3日／3 回	予防・治療
QiI殺菌剤	ランマンフロアブル	2,000 倍	7日／4 回	予防
CAA殺菌剤	レーバスフロアブル	2,000 倍	前日／2 回	予防・治療
CAA殺菌剤＋他	ベトファイター顆粒水和剤	2,000 倍	7日／3 回	予防・治療
	プロポーズ顆粒水和剤	1,000 倍	7日／3 回	

※ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤及びリドミルゴールド MZ は、同一成分(マンゼブ)を含み、合わせて5回まで

※ホライズンドライフロアブル及びベトファイター顆粒水和剤は同一成分(シモキサニル)を含むので合わせて3回まで

その他の剤も同一成分を含む場合があるので、成分毎の総使用回数に注意する。



写真1 ベと病の被害葉

(黄色で楕円形をした一般的な病斑)

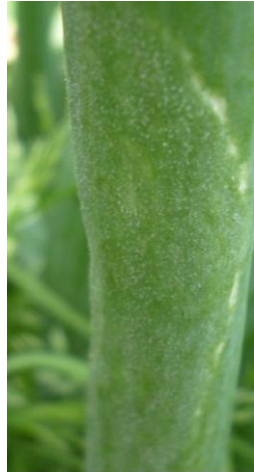


写真2 ベと病の被害葉

(発生初期の霜状のかび)



写真3 ベと病の被害葉

(急速に生じ進行した病斑)

◎防除薬剤については、

- Web 版大阪府病害虫防除指針

(<http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>)

- 農林水産消費安全技術センター 農薬登録情報提供システム

(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)